

壁掛け 据付工事説明書

本説明書は、室内ユニットの据付け方法を記載しております。「室内ユニット据付工事安全上のご注意」および「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」をご覧になった後、室内ユニットの据付けを行ってください。

- 電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。
 - リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
 - ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
 - 安全遮断弁の取付け方法は、安全遮断弁付属の説明書をご覧ください。
 - 冷媒検知警報器の取付方法は、冷媒検知警報器付属の説明書をご覧ください。
 - 室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。本室内ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。
 - この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。
This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

①据付の前に

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
 - 次の項目を確認してください。
 - 機種・電源仕様
 - 配管・配線・小物部品
 - 付属品

据付関係

1	据付板		1 個	室内ユニット裏面に付属
2	タッピンねじ		10 個	据付板用 径 4mm × 長さ 25mm
3	インシュレーション		1 個	断熱用 50mm × 100mm
4	空気清浄フィルター		2 個	付属品
5	フィルターホルダー		2 個	付属品
6	解除ピン※		1 個	インターロック解除用

※R32ビル用マルチ機のみ付属しています。

②室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

 - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーチュレータの併設をご指導ください。
 - ・人感センサを取付ける場合据付高さは4m以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
 - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が23°C以下、相対湿度80%以下の所。

〔本室内ユニットはJIS露付条件（室内：27°C/78%RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取付けてください。〕

 - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
 - ・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
 - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
 - ・蛍光灯、自熱灯よりできるだけ離れた所。

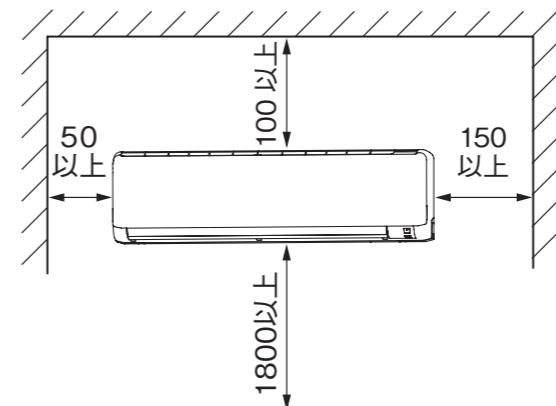
ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。

③ワイヤレス機種を2台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。

②室内ユニットの据付場所の選定のつづき

室内ユニット据付スペース

单位：[mm]



お願い

- 点検、メンテナンス作業のため
スペースを確保してください。

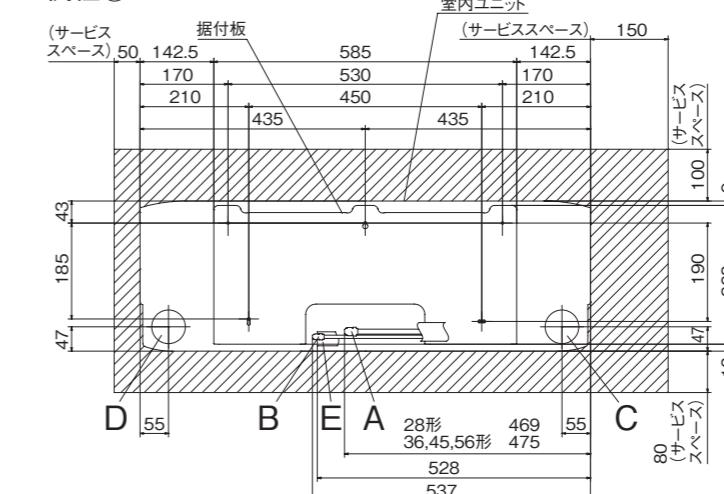
③据付け前の準備

機種Ⓐ: 店舗機シリーズ 56形/ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ 28~56形
機種Ⓑ: 店舗機シリーズ 63, 112形/ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ 71形

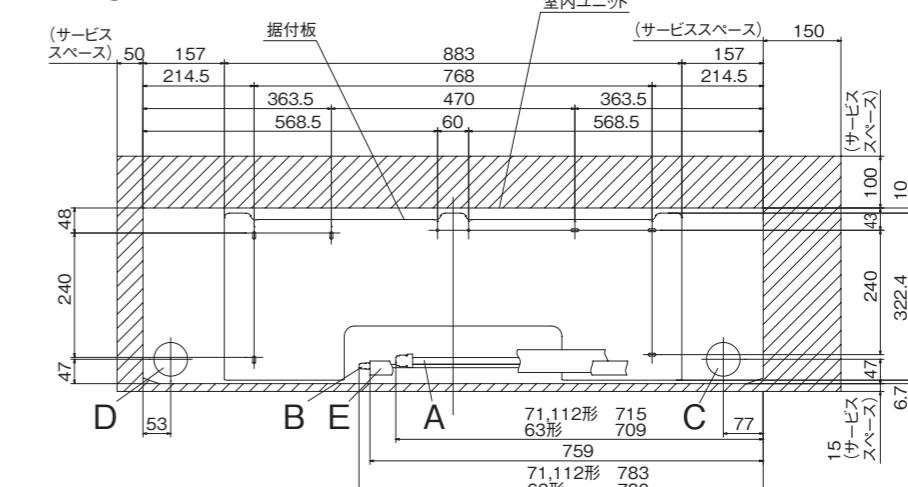
記号		記号	
A	ガス側配管	D	左配管後方抜壁穴
B	液側配管	E	ドレンホース
C	右配管後方抜壁穴		

正面から見た据付け位置図及び据付けスペース

機種(A)



機種(B)



④室内ユニットの据付け

搬入



お願い

- 搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包み室内ユニットを傷つけないように注意してください。
- 注) 吹出ルーバ部分を持たないでください。
- 解梱後室内ユニットを置く場合は、必ず室内ユニットの前面側を上にしておいてください。

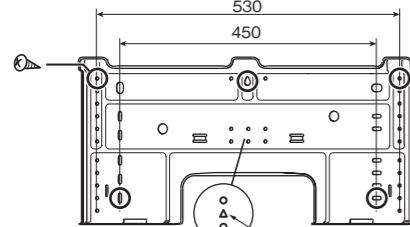
据付板の取付け

お願い

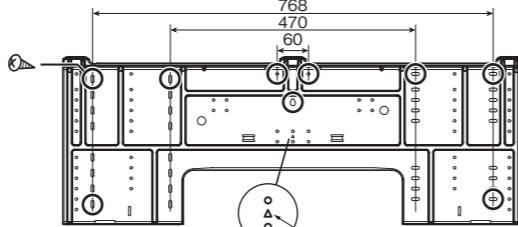
- この室内ユニットを直接壁面等に据付けることはできません。
- いずれの場所に据付ける場合にも必ず付属の据付板を使って据付けてください。

○据付板の水平調節は5~9本のねじを仮締めした状態で行います。

機種④ 28~56形

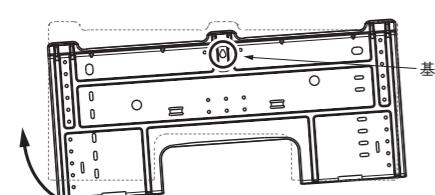


機種④ 63~112形

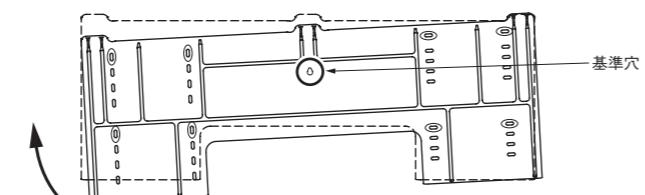


○壁内の構造物(間柱など)をさがして水平を確認してから強固に取付けてください。

機種④ 28~56形



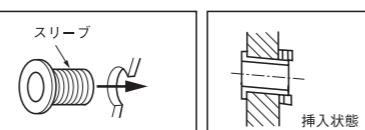
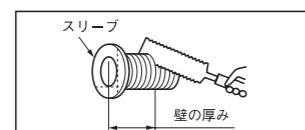
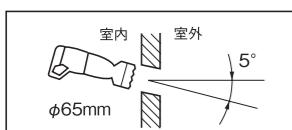
機種④ 63~112形



○基準穴を中心に回転し水平になるよう調節します。

壁の穴開け要領

- 接続配線が壁中のラスメタルなどに接触して危険が生じる場合がありますのでスリーブは必ず使用してください。
- 左後抜き配管の場合、スリーブのツバが本体よりはみ出る場合がありますので、その場合はツバを切断してください。



- φ65のホールコアドリルで穴あけをします。

- 右後抜き配管の場合はスリーブのツバの下部及び右側薄肉部を切りとります。(破線指示箇所)

警告

壁穴をパテで完全にシールしてください。
(ホコリ・昆虫・小動物・高湿度の外気が室内機内に流入し、火災の原因になることがあります。)

注意

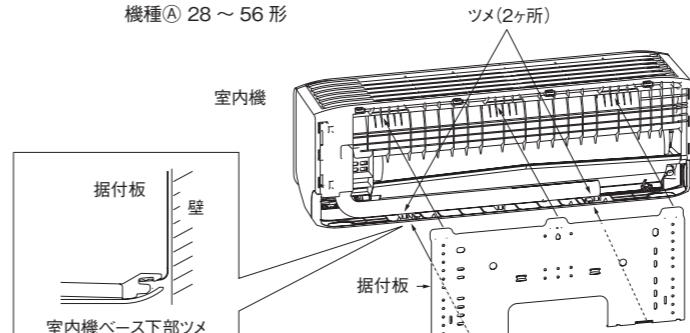
壁穴をパテで完全にシールしてください。
(水漏れ・露たれし、家具等を濡らす原因になることがあります。)



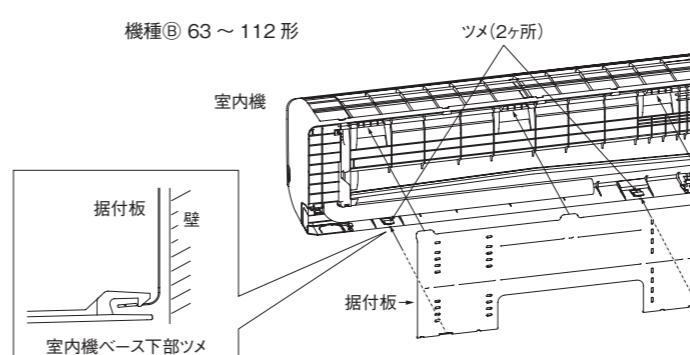
④室内ユニット据付けのつづき

室内ユニットの据付

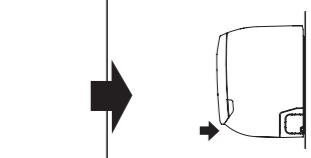
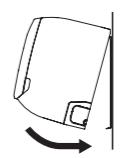
機種④ 28~56形



機種④ 63~112形



据付作業手順

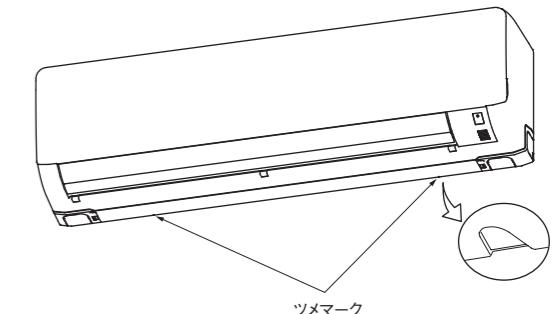


- ①据付板に室内機上部を引っ掛ける。

- ②室内機下部を軽く押せばワントッチで固定できます。

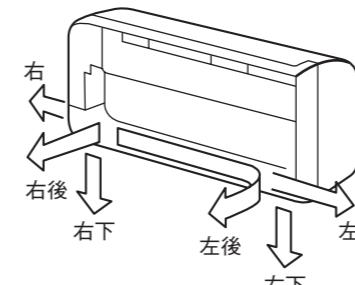
- 室内ユニットを据付板から取外す場合

室内ユニットベース下部ツメ位置マーク部を指で上方に押しながら、室内ユニット下部両端を引き上げてください。室内ユニットベース下部ツメが据付板から外れます。

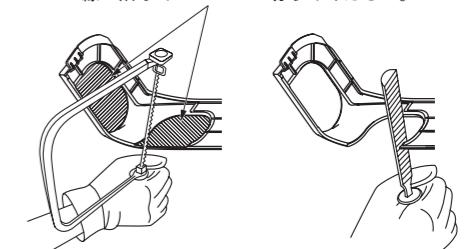


⑤配管・ドレンホースの整形

配管は、後、左、左後、右、下から取り出せます。

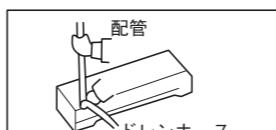


横または下部に配管する場合は、パネルを線に沿ってスムーズに切ってください。

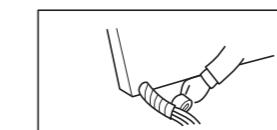


〈後取り出しの場合〉

○配管の整形



○テープ巻き

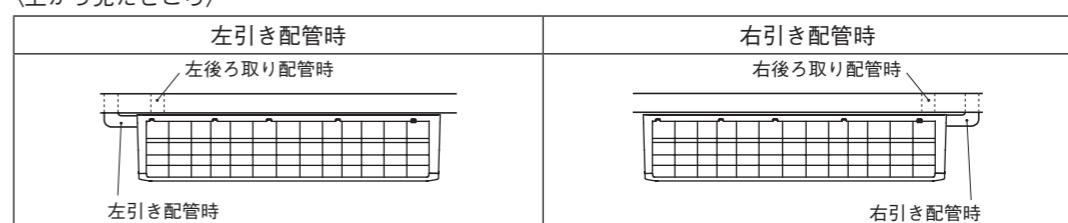


配管の整形後テープ巻きを行う前に接続電線が端子台にしっかりと固定されていることを確認してください。

- 配管の根元を押さえ向きを変えてから延ばし整形する

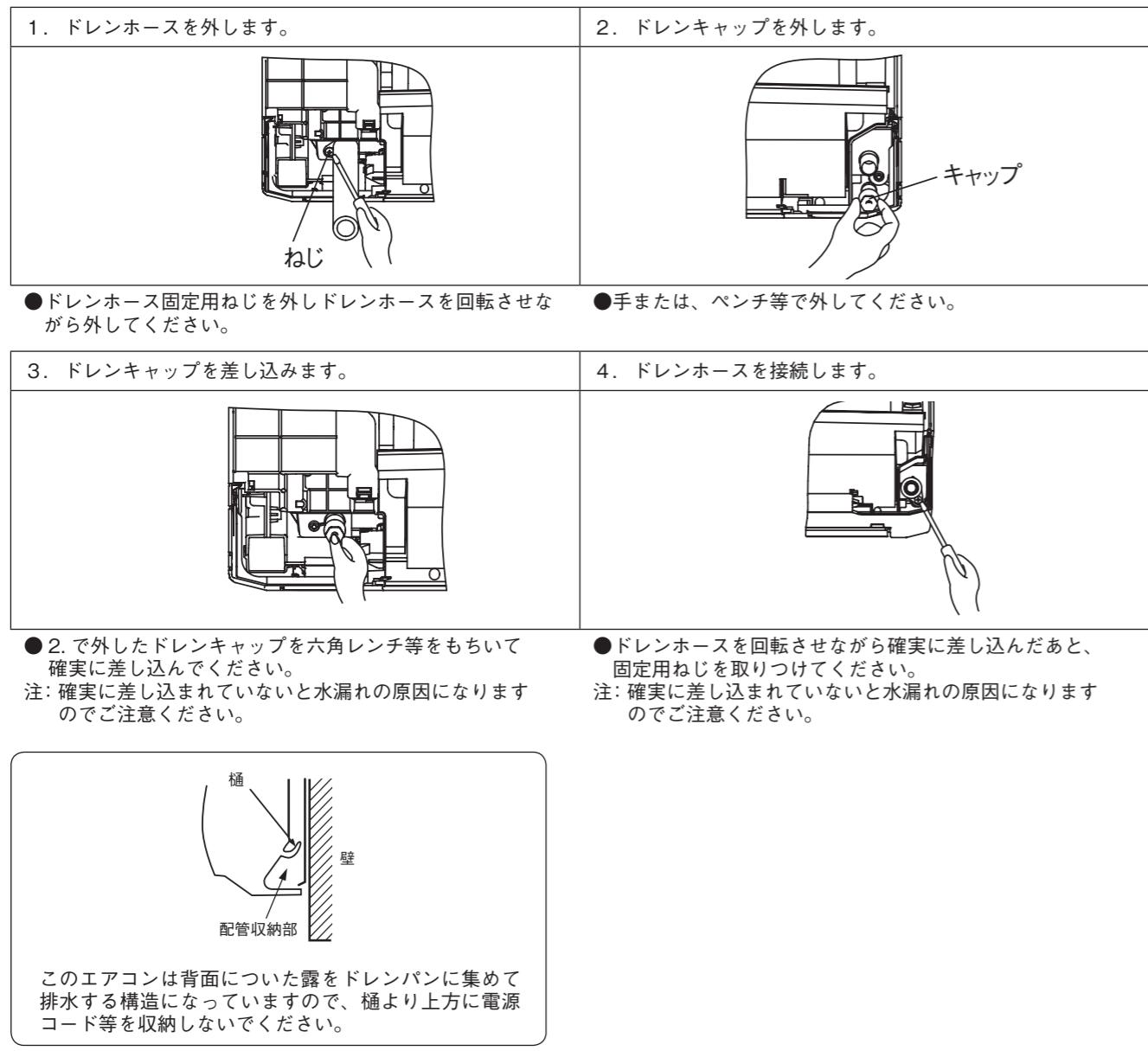
- 壁穴を通す長さ分だけテープ巻きしてください。
- 塗り配線は必ず配管とテープで固定してください。
- テープ巻きの際、ドレンホースが引っ張られないように注意してください。

〈左取り出し・後取り出し時の注意事項〉 (上から見たところ)



⑤配管・ドレンホースの整形のつづき

〈ドレンホース付替え作業手順〉

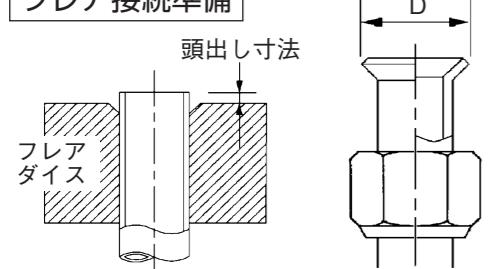


⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの (JIS B 8607 2種適合品) をご使用ください。他のフレアナット (1種) を使用すると冷媒漏れの原因となります。
- 既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用してください。
- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32用またはR410A用のフレア加工をしてください。

フレア接続準備



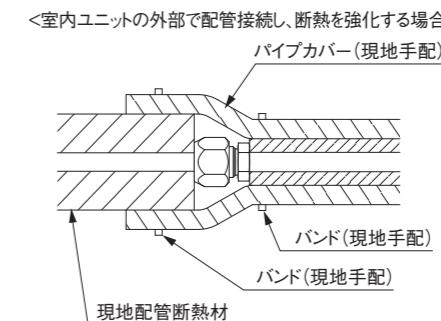
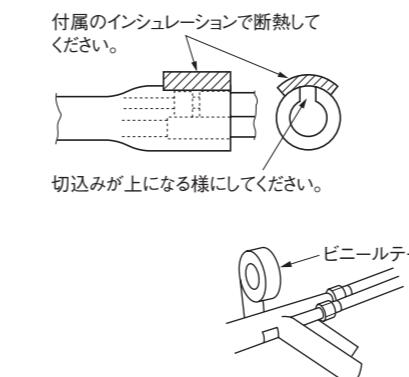
配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N·m
		リジッド (クラッチ式)	従来ツール		
6.35	0.8			8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
9.52	0.8			12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
12.7	0.8			16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
15.88	1			19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
19.05	1.2			23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

⑥冷媒配管のつづき

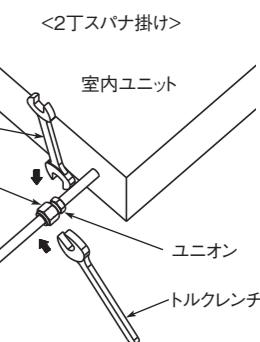
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管 (C1220T, JIS H 3300) をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- 指定冷媒以外は使用しないでください。指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。
- 据付けに使用する配管は室内に保管し、両端ともろう付けする直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具は R32用またはR410A用の工具を使用してください。

フレア接続手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
(このときガスが出ることがあります、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。
- フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで左表の締付力で締めてください。
3. 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、下図に示すように室内ユニットの断熱材で覆い、付属のインシュレーションで切込み部を断熱してからテーピングしてください。
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- ガス側配管の断熱材は耐熱120°C以上のものを使用してください。
- 高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。



注意
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあります。ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面のみとしてください。

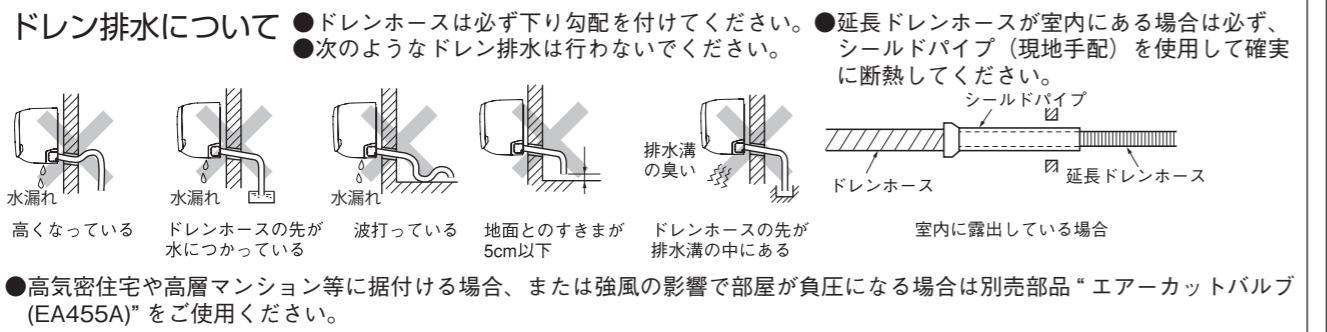


⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

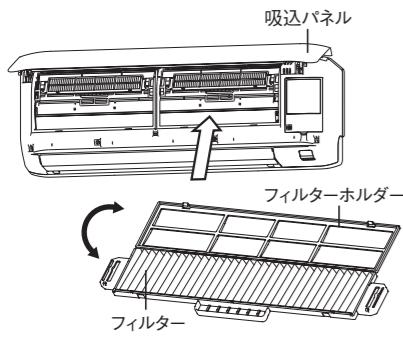
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になります。
 - ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
 - 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
 - 水漏れが起らないように、断熱工事を確実に行ってください。
 - 施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
 - ドレン配管は下り勾配 (1/100 以上) とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時に排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。
1. ドレン配管は、ドレンホース先端に硬質塩ビパイプ一般管 VP-16 が接続可能です。
 2. ドレン配管はドレン水が流れやすいように下り勾配にし、配管途中にトラップをつくったり山越え配管をしないようにしてください。
(左、右、後、下方向に取出し可能)
室内に施工の硬質塩ビパイプ (VP-16) は確実に断熱してください。
 3. 热交換器の下のドレンパンに水を注ぎ室外へ排水されることを確認してください。(前面パネルの取付け取外しについては本説明書 ⑨電気配線取出し位置および電気配線接続をご覧ください。)

⑦ ドレン配管のつづき



⑧ 空気清浄フィルターの取付け

下記の手順に従って室内ユニットに取付けてください。



- 1 吸込パネルを開け、エアフィルターを取り外します。
- 2 付属品に同梱されている水洗いサンファルター（オレンジ）と酵素強力除菌フィルター（グリーン）をフィルター ホルダーに取付けます。
空気清浄フィルター交換時は室内ユニット本体からフィルター ホルダーを取り外し、新しい空気清浄フィルターと取替えてください。
※酵素強力除菌フィルターはプリーツ（ひだ形状）が手前側になるように取付けてください。水洗いサンフィルターはどちらをおもてにしていただいて結構です。
- 3 空気清浄フィルターを取り付けたフィルター ホルダーをエアコン本体に取付けてください。
※水洗いサンフィルター、酵素強力除菌フィルターは左右どちらへ装着いただいて結構です。
- 4 エアフィルターを取り付け、吸込パネルを閉じます。

⑨ 店舗シリーズ機種容量統合機の場合

室外ユニットとの組み合わせにより下表の通り室内ユニット容量が自動認識されます。機種名銘板の機種容量に○印を付けてください。

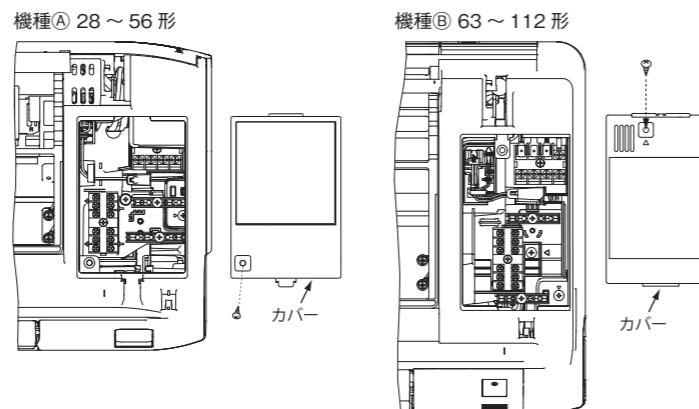
室内ユニット	室内ユニット 1台接続							2台接続			3台
室外ユニット	40	45	50	56	63	80	112	80	112	140	160
FDKZP56	P40	P45	P50	P56				P40			P50
FDKZP63					P63			P56			
FDKZP112						P80	P112		P71	P80	

⑩ 電気配線取出位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

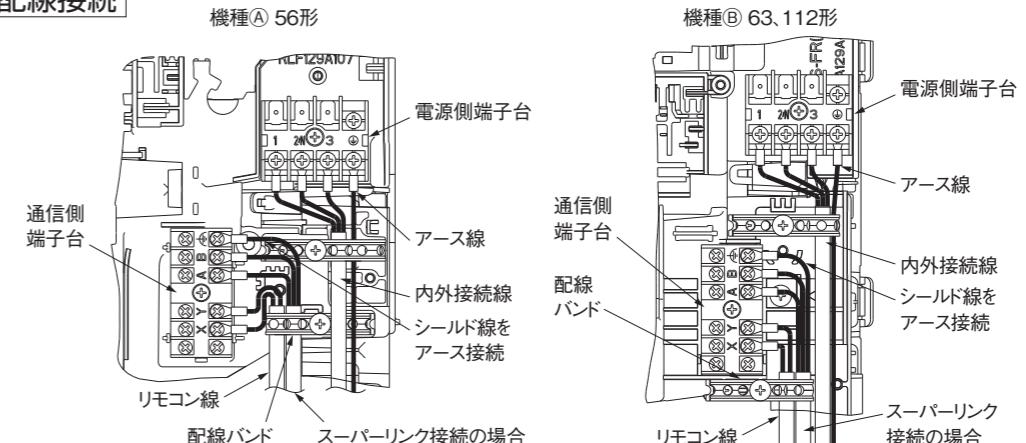
機種 A：店舗機シリーズ56形／ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ28～56形
B：店舗機シリーズ63、112形／ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ71形

- ①吸込パネルを手前に引き上げてください。
左右側面の凹部に手をかけ手前に引き上げますと約60～70°開いた状態で静止します。
- ②カバーのねじを外して、カバーを外してください。
- ③各配線を端子台に確実に接続してください。
- ④各配線をバンドで確実に固定し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにしてください。
- ⑤カバーを取り付け、ねじを締めます。
- ⑥吸込パネルを締めます。
(注意)・配線を端子台に取り付けるときは、端子番号を確認してから取り付けてください。

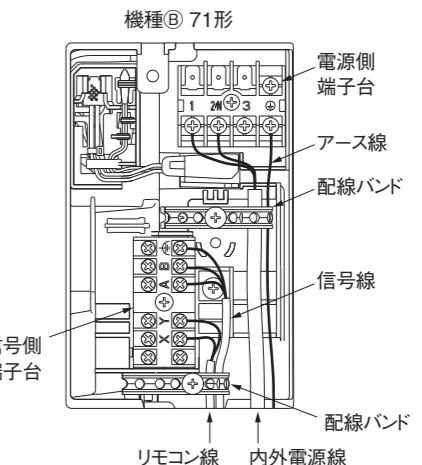
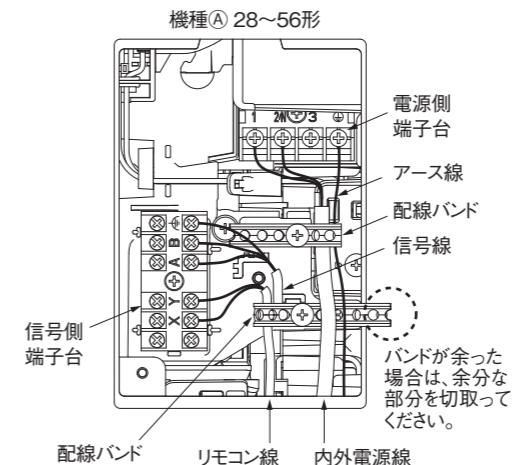


⑩ 電気配線取出位置および電気配線接続のつづき

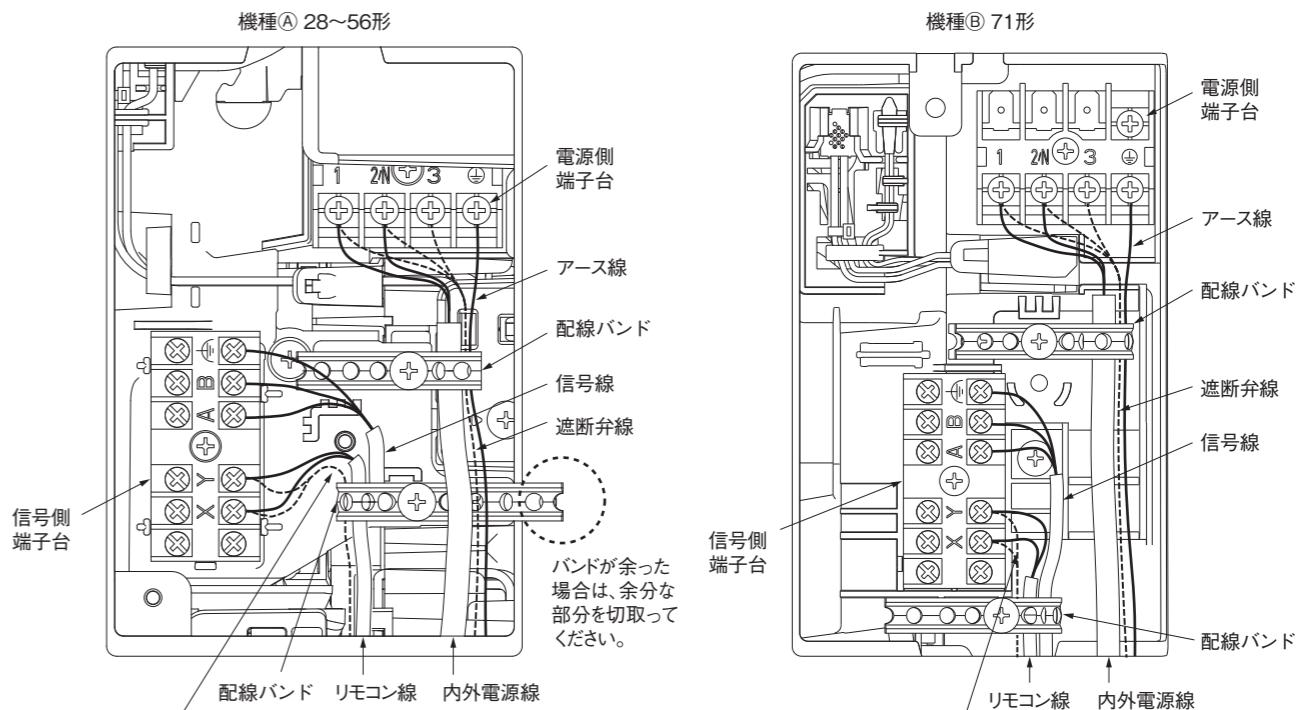
店舗機の配線接続



R410Aビル空調・ガスヒートポンプの配線接続



R32ビル用マルチ機の配線接続



冷媒検知警報器線※

※他社製の安全対策機器を接続する場合は電気配線工事説明書をご覧ください。

メインヒューズ仕様

仕様	部品番号
T3.15A L250V	SSA564A149AF

冷媒検知警報器線※

※他社製の安全対策機器を接続する場合は電気配線工事説明書をご覧ください。

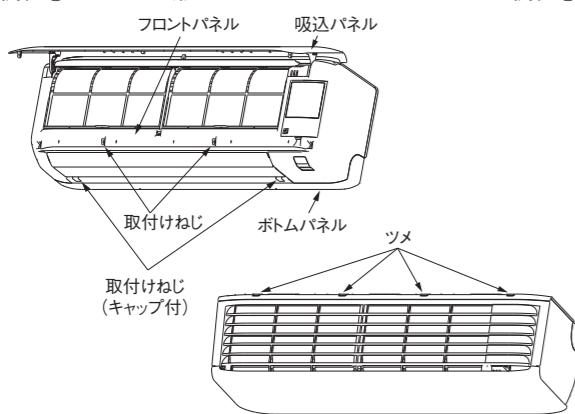
⑩電気配線取出し位置および電気配線接続のつづき

●アドレス設定

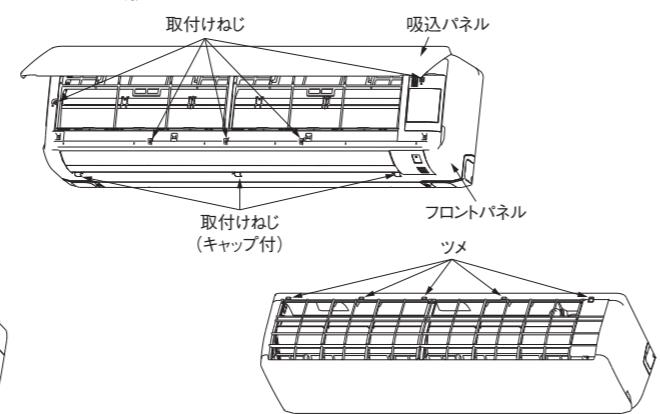
室内ユニット本体のフロントパネルと、コントロールボックスのふたを取り外すことでアドレススイッチの設定が可能です。

1. フロントパネルの取外し順序
 - ①吸込パネルを取り外してください。
 - ②ボトムパネルの取付ねじを外してください。(機種Ⓐのみ、キャップ付き)
 - ③ボトムパネルの両側にあるツメ(2ヶ所)を取り外し、ボトムパネルの取外してください。(機種Ⓐのみ)
 - ④取付ねじを取り外してください。(機種Ⓑ2ヶ所、機種Ⓑ5ヶ所・キャップ付3ヶ所)
 - ⑤上部のツメ(機種Ⓐ4ヶ所、機種Ⓑ5ヶ所)を取り外し、フロントパネルを取り外してください。
2. フロントパネルの取付け順序
 - ①フロントパネルを室内ユニットにかぶせ、上部のツメ(機種Ⓐ4ヶ所、機種Ⓑ5ヶ所)を引っ掛けしてください。
 - ②取付ねじを締めます。(機種Ⓐ2ヶ所、機種Ⓑ5ヶ所・キャップ付3ヶ所)
 - ③ボトムパネルの両側にあるツメ(2ヶ所)を引っ掛け、ボトムパネルを取付けてください。(機種Ⓐのみ)
 - ④ボトムパネルの取付ねじを締めてください。(機種Ⓐのみ、キャップ付き)
 - ⑤吸込パネルを取付けてください。

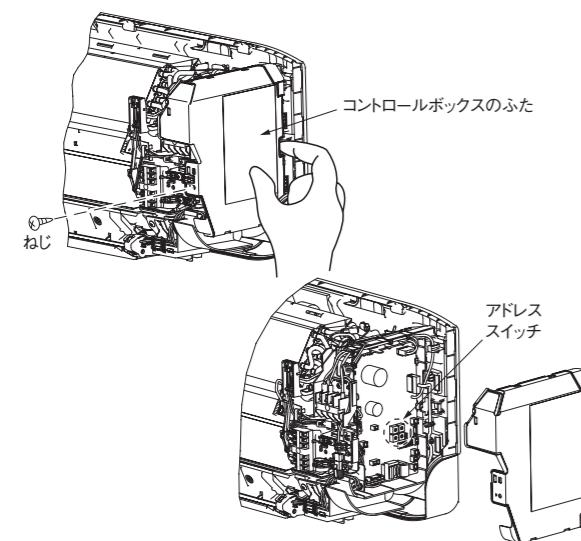
機種Ⓐ 28～56形



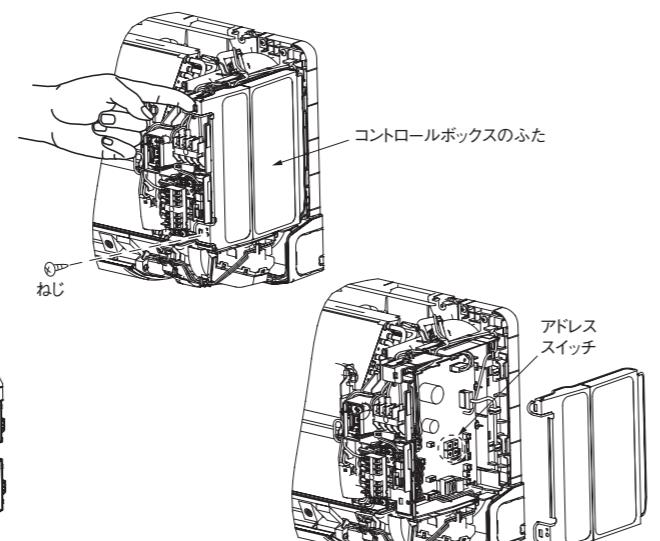
機種Ⓑ 63～112形



機種Ⓐ 28～56形



機種Ⓑ 63～112形



⑪インターロック機能 (R32ビル用マルチ機のみ)

- R32マルチ機の室内ユニットは、冷媒漏えいの安全対策のためにインターロック機能が有効になっています。
- インターロック機能が有効になっている場合、空調システムは運転できません。

※インターロックが有効状態だとリモコンにメンテナンスコード(M28)が表示され、ユニットは運転できません。

インターロック機能の解除方法

○すべての安全対策機器が必要な場合

下記のすべての安全対策機器を室内ユニットに接続してください。

- ・安全遮断弁
- ・冷媒検知警報器
- ・ecoタッチリモコン (RC-DX3D以降)

○接続する安全対策機器が一部のみ・安全対策機器が必要な場合

室内ユニットに付属のインターロック解除ピンを室内制御基板上のコネクタに接続してください。(下図参照)

※解除ピンの接続の前には、**冷媒漏えいに対する安全対策が十分であること**、もしくは**安全対策が必要ないことを必ず確認してください。**

※冷媒検知警報器に子機として接続している室内ユニットのインターロック機能を解除するためには、解除ピンの接続が必要です。

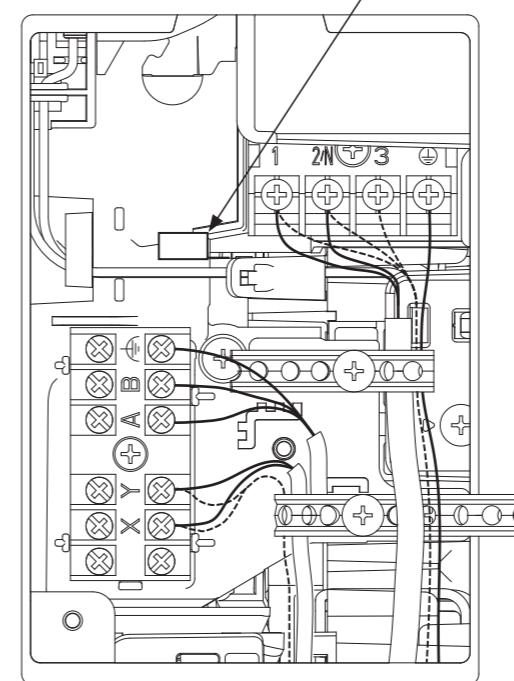
※安全対策機器の要否、及びインターロック機能についての詳細は、「安全対策マニュアル」をご覧ください。

<インターロック解除ピンの接続コネクタ>

インターロック解除ピンは室内ユニットの制御箱付近に付属しています。
使用しない場合は取り外して廃棄してください。

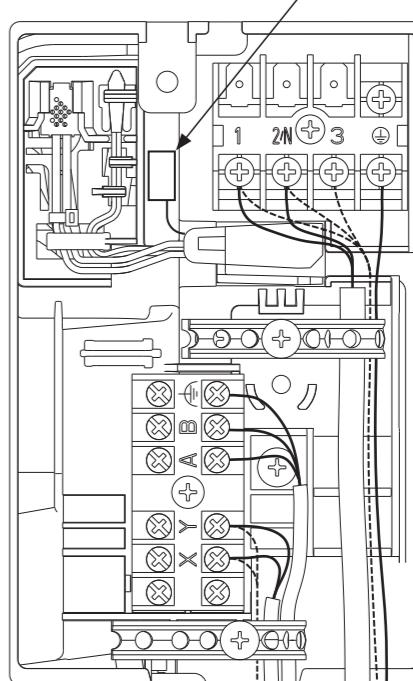
CNF2(コネクタ色:白)
(インターロック解除ピン接続コネクタ)

機種Ⓐ 28～56形



CNF2(コネクタ色:白)
(インターロック解除ピン接続コネクタ)

機種Ⓑ 71形



⑫室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

- 室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

R32ビル用マルチ機の場合、付属の「据付工事施工チェックリスト(R32ビル用マルチ)」を用いて安全対策機器の確認をしてください。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりとっていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

- 作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。

安全のため必ずお守りください。

- 誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「△警告」と「△注意」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。

●「△警告」「△注意」の意味

△警告	守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。	△注意	守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。
------------	--	------------	-------------------------------

- ここで使われる“図記号”的意味は右のとおりです。①絶対に行わない ②必ず指示に従い行う

- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

△警告

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。

電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。

- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。

- 別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。

- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

- 室内外ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

- 室内外ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカー」を必ずOFFする。点検・修理にあたって、電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

- 元電源を切った後に電気工事をする。感電、故障や動作不良の原因になります。

△注意

●アース（接地）を確実に行う。

アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。

漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極遮断するブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。

不適切な容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。

針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。

漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。

●室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。

また、異なるサイズの単線またはより線を併用しない。

端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。

必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカーによるエアコンの運転や停止をしない。

火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

制御の切り換え

- 室内ユニットの制御内容を下記方法にて切り換え可能です。(□は工場出荷時の設定)

スイッチNo.	制御内容
SW1	室内アドレス(10位)
SW2	室内アドレス(1位)
SW6-1~4	機種容量
SW7-1	ON 旧SL:ビル空調2LXシリーズ、ガスヒートポンプM7シリーズ以前 OFF 通常運転
SW7-2 (注1)	ON 旧SL/旧SL通信仕様固定 OFF 新SL/旧SL通信仕様自動判別
SW7-3	ON 室内アドレス(100の位) ON:1 OFF 室内アドレス(100の位) OFF:0

※注1:集中制御機器接続時の場合

通信方式であるスーパーリンクの仕様が選択できます。

旧SL:ビル空調2LXシリーズ、ガスヒートポンプM7シリーズ以前

新SL:ビル空調3LXシリーズ、ガスヒートポンプM8シリーズ以降

SW7-2がOFF(工場出荷設定)の場合は、通信仕様(新SL/旧SL)を自動判別します。

旧SL通信仕様固定で使用する場合は、SW7-2をONにしてください。

各通信仕様の特徴、制限は室内ユニット付属の説明書をご覧ください。

機種容量の設定

- 本室内ユニットは、マルチV接続の場合のみ、それぞれの室内ユニット毎に機種容量設定が必要です。機種容量設定は室内ユニットの制御箱内の基板上のスイッチSW6で設定してください。

シングル・ツイン・トリプル・Wツイン接続の場合

- [i] 同機種 / 同容量の室内ユニットを接続する場合

①室外ユニットから電源投入すると自動で機種容量を認識しますので、スイッチ設定は不要です。

②エコタッチリモコンから、機種容量を確認できます。詳細は③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法を参照してください。

マルチV接続の場合

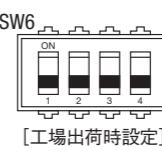
- [ii] 異機種 / 異容量、同機種 / 異容量の室内ユニットを接続する場合

①電源投入前に室内ユニットの制御箱内の基板上のスイッチSW6で機種容量を設定してください。形式により設定できる機種容量は下表の通りです。これ以外に設定しないでください。正常に運転できません。また破損の原因となります。

- [ii] 異機種 / 同容量の室内ユニットを接続する場合

①自動で機種容量を認識するため、設定不要です。

形式	FDT FDR	ZP636S ZP566S	ZP636S ZP806S	ZP1606S ZP1126S	ZP1606S ZP140
容量	P50	P56	P63	P71	P80
SW6-1	ON	OFF	ON	OFF	ON
SW6-2	OFF	ON	ON	OFF	OFF
SW6-3	ON	ON	ON	OFF	OFF
SW6-4	OFF	OFF	OFF	ON	ON



注1: 工場出荷時の設定は自動認識(全てOFF)になっています。

注2: シングル・ツイン・トリプル・Wツイン接続の場合でもスイッチを自動認識以外の状態にすると、設定した機種容量として認識します。

①電源・室内外配線の接続

- 電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

①配線は銅線以外のものを使用しないでください。

②電源は、室外ユニットへ接続してください。

③電気ヒータ(別売品)はなしにて記載してあります。注:電気ヒータの組込みは不可です。別置ヒータを連動させる場合は、ヒータ専用電源を設けること。

●アース線は室内外接続線及び室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力がかからないようにしてください。

●電源は工事が完了するまで入れないでください。

●D種接地工事を必ず行ってください。

●端子台への接続は、丸型圧着端子を使用してください。

●専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカー落ちによる二次災害が生じる恐れがあります。

●室内外接続線は必ず3芯ケーブルを使用してください。詳細は室外ユニットに付属の据付説明書を参照ください。

●室内外接続線は途中接続しないでください。途中接続した場所に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。(万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。)

●天井裏内の配線(電源・リモコン・室内外接続線など)はネジ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。

●室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接触しないように施工してください。

●信号側端子台には、200V電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。

●室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続

①室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、信号側端子台に接続してください。室内外接続線の①②③は極性がありますので、必ず番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース端子に接続してください。

②電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器(三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品)を選定してください。

③漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)または、配線用遮断器が必要となります。

④手元開閉器は室外ユニットの近傍に設置してください。

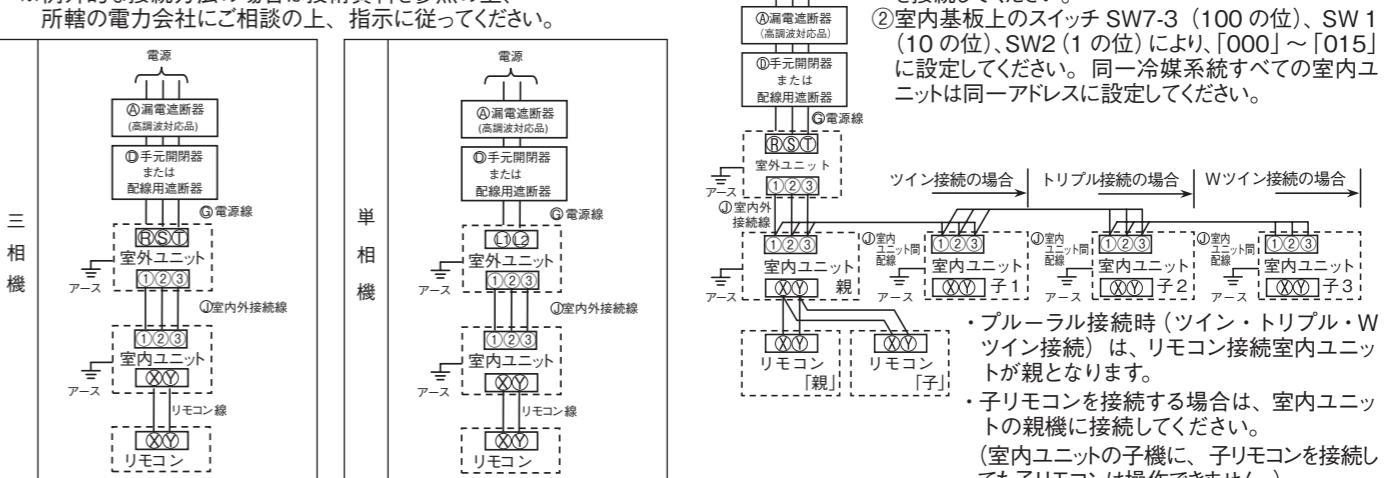
●配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。

●補助電気ヒータ組込の場合は、電気ヒータ組込時の説明書・または技術資料で確認してください。

シングル接続の結線

- ①室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。

※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照の上、所轄の電力会社にご相談の上、指示に従ってください。



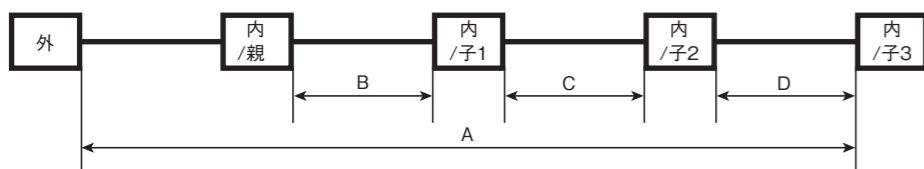
①電源・室内外配線の接続 (つづき)

フリーアドレスプーラル接続時の総配線長制限

下記の条件①,②のどれかひとつでも該当する場合は、フリーアドレスプーラル接続できません。

室内外接続配線太さ	総配線長: A	室内ユニット間の接続配線長: B,C,D
① 3.5mm ² 使用時	80mを超える場合	いずれか55mを超える場合
Φ1.6mm使用時	70mを超える場合	いずれか25mを超える場合

② 接続される室内ユニットの中に、フリーアドレスプーラル制御非対応機がある場合
(FDFタイプ、5型以前の室内ユニットが含まれる場合)

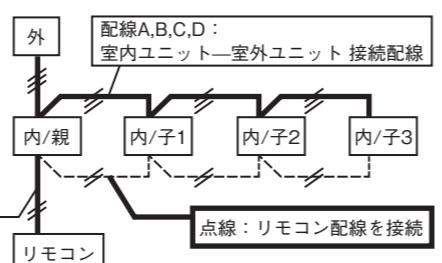


①・②の場合は、室内ユニット間の通信にはリモコン配線(右図:点線)を使用し、室内ユニットの親機-子機設定スイッチ(SW5-1,5-2)を、下記のとおり設定ください。

アドレスSW	親機	子1	子2	子3
SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

また、室外ユニットのフリーアドレスプーラル設定スイッチを、下記のとおり設定ください。
(室外ユニットの据付説明書を参照ください。)

Exceed 3HP…FDCZ(S)P806H, HK	SW8-3 : OFF→ON
上記以外の室外ユニット	SW4-1 : OFF→ON



②リモコンの取付け (別売部品)

●取付けの詳細はリモコンの据付説明書を参照ください。

●次の位置へ取付けないでください。

- 直射日光の当たる所
- 湿気の多い所、水が飛散する所
- 油の飛沫や蒸気が直接触れる所
- 取付け面が発熱・結露する所
- 取付け面の凹凸がある所

リモコン取付け・配線

①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。

②リモコン線は、0.3mm²×2心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は1mm以上のものを使用してください。(現地手配)

③リモコン線の総延長は600mです。

延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。

- 100~200m以内 ····· 0.5mm²×2心
- 300m以内 ····· 0.75mm²×2心
- 400m以内 ····· 1.25mm²×2心
- 600m以内 ····· 2.0mm²×2心

④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。

⑤リモコン線はアース(建物の鉄骨部分または金属など)からできるだけ離してください。

⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。(極性はありません)

①リモコンによる複数台室内ユニット制御

①1つのリモコンで複数台の室内ユニット(最大16台)をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。

②グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。

③室内ユニットの基板上のスイッチ SW7-3 (100の位)、SW1 (10の位)、SW2 (1の位)により、室内アドレスを重複しないよう「000」～「127」から設定してください。

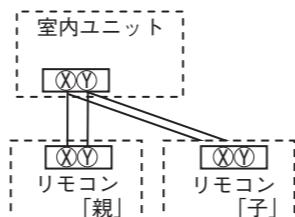
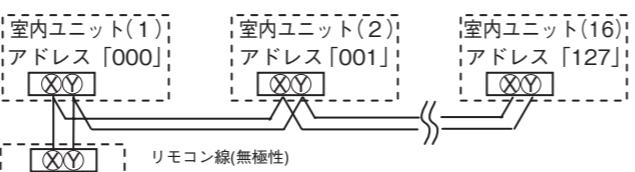
複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。



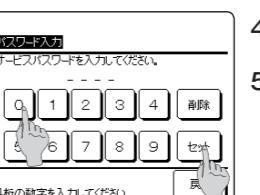
③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法

●電源投入後、接続されている室内ユニットの機種容量とアドレスがリモコンに表示されることを必ず確認してください。
(アドレス確認はシングル接続を除く)

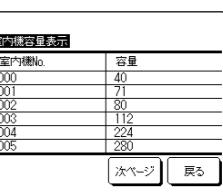
ecoタッチリモコン(RC-DXシリーズ)の場合



1 メニューをタッチする。
メニュー画面に切り替わります。

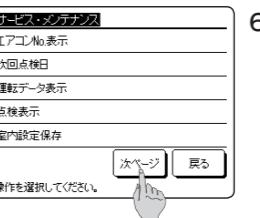


4 サービスパスワードを入力する。
5 セットをタッチする。
サービス・メンテナンスの画面に切り替わります。



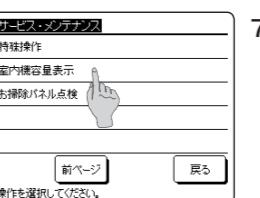
8 接続されている室内ユニットのアドレスNo.(室内機No.)と機種容量(容量)が表示されます。

2 サービス設定をタッチする。
サービス設定画面に切り替わります。



6 次ページをタッチする。

3 サービス・メンテナンスをタッチする。
パスワード入力画面に切り替わります。



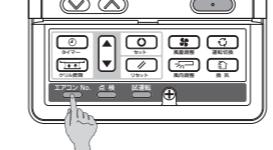
7 室内機容量表示をタッチする。

標準リモコン(RC-Dシリーズ)の場合

機種容量は確認できません。

1 エアコンNo.ボタンを押す。
室内ユニットアドレスが表示されます。

2 ▲▼ボタンを押す。
接続されている室内ユニットのアドレスが表示されます。



カバーを開けた状態です。また、液晶表示部は全表示してあります。

④リモコンからの操作・確認方法

No.	項目	eco タッチリモコンから操作(RC-DX シリーズ)	標準リモコンから操作(RC-D シリーズ)
1	リモコン系統内の接続ユニットの接続台数確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを1台ずつ確認してください。
2	リモコン系統内の接続室内ユニットの接続確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示] ⇒ [個別送風運転]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを選択してください。 ③[運転切換] を押してください。送風運転します。
3	親子リモコン設定	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [リモコン親子設定]	子リモコン切換スイッチ(SW1)を「子」に設定してください。
4	運転データの確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [運転データ表示]	[点検] ⇒ 運転データ表示▼ ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ 室内機選択 ⇒ ▲▼ボタンで接続されている室内アドレスを1台選択 ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ ▲▼データ選択
5	点検表示の確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [点検表示]	[点検] ⇒ 運転データ表示▼ ⇒ [▼] ⇒ エラーデータ表示▲ ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ データ表示
6	リモコンからの冷房試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [冷房試運転] ⇒ [開始]	①[運転/停止] を押し、運転させてください。 ②[運転切換] により、「冷房」を選択します。 ③[試運転] を3秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。 ④「冷房試運転▼」の表示で、[セット] ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
7	リモコンからドレンポンプ試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [ドレンポンプ試運転] ⇒ [運転]	①[運転/停止] を押し、運転させてください。表示が「冷房試運転▼」となります。 ②[▼] を一度押し、「ドレンポンプ運転」を表示させます。 ③[セット] を押すと、ドレンポンプ運転を開始します。 表示:「セットで停止」

リモコン形式の違いにより、メニュー構成が異なる場合があります。リモコン形式が異なる場合は、リモコン付属の据付説明書をご覧ください。

⑤リモコンからの操作・設定

〈ecoタッチリモコンの凡例〉		〈標準リモコンの設定操作可否〉	
A: eco タッチリモコン付属の取扱説明書を参照ください。		○: eco タッチリモコンと、ほぼ同等の機能設定・操作が可能です。	
B: eco タッチリモコン付属の据付工事説明書を参照ください。		△: eco タッチリモコンと、類似の機能設定・操作が可能です。	
C: インターネットよりユーティリティーソフトを配信中です。		空欄: 標準リモコンには、この機能はありません。	
設定および表示項目		詳細内容	eco タッチ リモコン
1. リモコンネットワーク			
1	複数室内機制御	リモコン1台(リモコンネットワーク内)に最大16台室内機を接続制御できます。室内機側にアドレスを設定します。	○
2	親子リモコン設定	リモコンネットワーク内に2個のリモコン(含むワイヤレスリモコン)を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。	○
2. TOP 画面・SW 操作			
1	メニュー	制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。	A
2	運転モード	冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。	A
3	設定温度	室温を0.5°C単位で設定します。	A
4	風向	風向を設定します。おまかせ気流の有効/無効を設定します(FDKの場合)。※2	A
5	風量	風量を設定します。	A
6	タイマー設定	タイマー運転を設定します。	A
7	運転/停止 SW	運転を開始します。/停止します。	A
8	F1スイッチ	※1 F1スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A
9	F2スイッチ	※1 F2スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A
10	言語切換	※2 リモコンに表示する言語を選択します。 選択できる言語は下記です。 英語/日本語 ドイツ語/フランス語/スペイン語/ポルトガル語/中国語	A
3. 便利機能			
1	フリーフロー設定	各ルーバーの可動範囲(上限位置-下限位置)を設定します。 FDKの場合は左限位置-右限位置も設定します。※2	A
2	エアフレックス(風よけ)設定	※1・詳細設定: 各運転モード、各吹出口のエアフレックス(風よけ)機構動作の有効/無効を設定します。 エアフレックスパネル組合せの場合 ※3・ON/OFF 切換: 詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックスON/OFF(作動中/停止中)を切換えます。	A
3	サーマルセンサ制御	※7 室内ユニットのサーマルセンサ制御を設定します。	A
4	タイマー設定	時間入タイマー 時間切タイマー 時刻入タイマー 時刻切タイマー ウィークリータイマー タイマー設定内容確認	A
		停止後、運転させたい時間を設定します。 ・1~12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。 運転後、停止させたい時間を設定します。 ・1~12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。 運転開始時刻を設定します。 ・設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・1回のみ/毎日の切換が可能です。 運転停止時刻を設定します。 ・設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・1回のみ/毎日の切換が可能です。 1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・1日最大8パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A
5	おこのみ設定 管理者パスワード	※1 おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定1、おこのみ設定2のそれぞれに設定が可能です。	A
6	おるす番運転 管理者パスワード	お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温/低温にならないように温度を保ちます。 ・外温と制御温度により冷房/暖房を行います。 ・設定温度、風量の設定が可能です。	A
7	換気 換気機器組合せの場合	換気のON/OFF操作を行います。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [換気設定] の設定が必要です。 ・換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転/停止ができます。	A

※1: RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。
※2: RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。
※3: RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。
※4: RC-DX3B 以前のリモコンには、この機能はありません。

※5: RC-DX3C 以前のリモコンには、この機能はありません。
※6: 標準リモコンには、この機能はありません。
※7: 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定(つづき)

設定および表示項目	詳細内容	ecoタッチ	標準リモコン
8 言語切換設定	リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / ポルトガル語 / 中国語	A	
9 室外静音設定	室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・室外静音運転の開始・停止を設定します。	A	△
10 室内機無線 LAN 設定	※ 7 無線 LAN を介した専用アプリによる室内機操作の有効 / 無効を設定します。	A	
11 省エネモード設定	※ 5 室内ユニットの省エネモードを設定します。	A	
12 見てみて	室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・室内ユニット一室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
13 消費電力量表示	※ 1 今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・室内ユニット一室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
4. 省エネ設定	管理者パスワード		
1 切忘れ防止タイマー	運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・設定時間は 30 ~ 240 分 (10 分単位) まで選択可能です。 ・設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。	A	
2 ピークカットタイマー	能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・能力制限率は 0.40 ~ 80% (20% 単位) から選択可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。	A	
3 設定温度自動復帰	設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・暖房モード / 冷房モード他、各々設定可能です。 ・設定時間は 20 ~ 120 分 (10 分単位) まで設定可能です。 ・設定時刻は 10 分単位で設定可能です。	A	△
4 人感センサ制御	※ 1 人感センサを使用の場合、パワーコントロールとオートオフの有効 / 無効を設定します。	A	
人感センサがある場合	パワーコントロールの冷房時 / 暖房時設定温度を設定します。	A	
5. お手入れ			
1 フィルタサインリセット	フィルタサインの解除	A	○
	次回清掃日の設定	A	△
2 グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル組合せの場合	A	○
	降下長設定 管理者パスワード	A	○
	ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	A	
3 お掃除パネル設定	お掃除自動設定 清掃時間帯設定 清掃間隔設定 ダスト回収設定 ブラシ清掃回数設定 ブラシ移動速さ	A	
管理者パスワード	※ 4 ※ 4 ※ 4 ※ 4 ※ 4 ※ 4	A	
6. ユーザ設定			
1 初期設定	時刻設定 時刻表示設定 サマータイム補正 コントラスト調整 バックライト ブザー音 運転ランプ輝度	A	△
	※ 1 ※ 1 ※ 1 ※ 1 ※ 1 ※ 1		

※ 1: RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 2: RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 3: RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 4: RC-DX3B 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 5: RC-DX3C 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 6: 標準リモコンには、この機能はありません。

※ 7: 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定(つづき)

設定および表示項目	詳細内容	ecoタッチ	標準リモコン	
2 管理者設定	操作制限設定 管理者パスワード	・操作の許可 / 禁止を設定します。 [運転 / 停止] [設定温度切換] [運転モード切換] [風向切換] [風量切換] [ハイパワー運転] [省エネ運転] [見てみて] [タイマー設定] [消費電力量表示] ※ 1 ※ 6 [サーマルセンサ制御] ※ 7 ・操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定] [グリル降下長設定] [ウィークリータイマー設定] [言語切換設定] [エアフレックス (風よけ) 設定] ※ 1 ※ 6	A	△
室外静音タイマー	室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。	A	△	
設定温度範囲	設定温度範囲を制限します。 ・運転モードによる温度範囲の制限が可能です。	A	△	
温度設定刻み切換	設定温度の刻み (0.5°C / 1.0°C) を設定します。	A		
設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切り替えます。	A		
リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり / なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり / なしを設定します。	A	△	
管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。 管理者パスワードのリセットを行います。	A	B	
スイッチ機能変更	※ 1 F1、F2 スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [エアフレックス ON/OFF] ※ 3 [ハイパワー運転] [省エネ運転] [室外静音制御] [るす番運転] [おこのみ設定運転1] [おこのみ設定運転2] [フィルタサインリセット] [グリル昇降] [消費電力量表示] [サーマルセンサ制御] ※ 7	A		
7. サービス設定				
1 据付設定	据付日登録 サービス情報入力 サービスパスワード	据付日を登録した場合、点検表示を行います。 リモコンに連絡先を登録することができます。 ・連絡先を半角 26 文字相当以内で登録できます。 ・連絡先 TEL 番号を 13 文字以内で登録できます。	B	
試運転	試運転の開始 / 停止を制御できます。 冷房試運転 ドレンポンプ試運転 お掃除試運転	試運転の開始 / 停止を制御できます。 設定 5°C 30 分間運転します。 ドレンポンプのみを運転します。 フィルタ清掃 ブラシ清掃運転します。 お掃除パネル組合せの場合	B	△
ダクト機静圧補正	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・接続室内ユニット毎に個別に設定できます。	B		
自動アドレス変更	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。	B	△	
親室内機アドレス設定	個別発停マルチシリーズ 設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。	B	△	
バックアップ制御	1 台のリモコンに室内ユニット 2 台 (2 グループ) は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効 / 無効が設定できます。	B		
人感センサ設定	※ 1 人感センサ付パネルの組合せの場合	リモコンに接続された室内機の人感センサ検知の有効 / 無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の人感センサ制御を行うことができません。	B	
リモコンアラーム音設定	※ 5	リモコンの警報機能の有効 / 無効を設定します。	B	
サーマルセンサ設定	※ 7	サーマルセンサの有効 / 無効を設定します。	B	
ドレンクリーン (UV-C) 設定	※ 5	ドレンクリーン (UV-C) の有効 / 無効を設定します。	B	
グリル昇降操作	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合	B	○	

※ 1: RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 2: RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 3: RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 4: RC-DX3B 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 5: RC-DX3C 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 6: 標準リモコンには、この機能はありません。

※ 7: 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定(つづき)

設定および表示項目		詳細内容		ecoタッチ	標準リモコン
2 リモコン設定 サービスパスワード	リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。		B	○
	吸込センサー制御	1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ・個別／親機／平均の選択が可能です。		B	
	リモコンセンサー	リモコンセンサーに切り替えるモードを設定できます。 冷房／暖房で切替可能です。		B	△
	リモコンセンサー補正	リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房／暖房 別々に補正可能です。		B	△
	運転モード選択	各運転モード毎に有効／無効を設定できます。		B	△
	設定温度単位	設定温度の単位を設定します。 ・℃／°Fの選択が可能です。		B	
	ファン速度	ファン速度の選択が可能です。		B	○
	外部入力設定	1つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT 入力の適用範囲が設定されます。		B	○
	上下ルーバ制御	上下ルーバの[4位置停止]／[フリー停止]の切換ができます。		B	○
	左右ルーバ制御 ※2	左右ルーバの[固定位置停止]／[フリー停止]の切換ができます。		B	
	換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。		B	○
	停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。		B	○
	設定温度自動設定	設定温度自動の有効／無効を選択できます。		B	
	風量自動設定	風量自動の有効／無効を選択できます。		B	
3 室内設定 サービスパスワード	風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。		B	○
	フィルターサイン	フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。		B	○
	外部入力1 設定	外部入力1 の制御内容を換えられます。		B	○
	外部入力1 方式切換	外部入力1 の信号方式を換えられます。		B	○
	外部入力2 設定	外部入力2 の制御内容を換えられます。		B	
	外部入力2 方式切換	外部入力2 の信号方式を換えられます。		B	
	暖房室温補正	暖房サーモ判定値を0～+3°Cの範囲で補正できます。		B	○
	吸込温度補正	吸込センサー検知温度を±2°Cの範囲で補正できます。		B	○
	冷房ファン制御	冷房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。		B	○
	暖房ファン制御	暖房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。		B	○
	プロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。		B	○
	プロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。		B	○
	ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。		B	○
	冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。		B	○
	暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。		B	○
	暖房ファン間欠	暖房停止・暖房サーモ OFF ファン残留運転後のファン運転を設定できます。		B	○
	送風サーモ運転	送風時のサーモ運転を設定できます。		B	
	外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。		B	
	運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を3種類から選択できます。		B	
	サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。		B	
	風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。		B	
	室内過負荷アラーム	運転開始30分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力(CNT-5)から過負荷アラーム信号を送信します。		B	
	外部出力設定 ※1	外部出力1～4に割り当てる機能を換えられます。		B	
	デプロスト時ファン制御 ※5	デプロスト運転時のファン回転数を設定します。		B	

※1: RC-DX2以前のリモコンには、この機能はありません。

※2: RC-DX3以前のリモコンには、この機能はありません。

※3: RC-DX3A以前のリモコンには、この機能はありません。

※4: RC-DX3B以前のリモコンには、この機能はありません。

※5: RC-DX3C以前のリモコンには、この機能はありません。

※6: 標準リモコンには、この機能はありません。

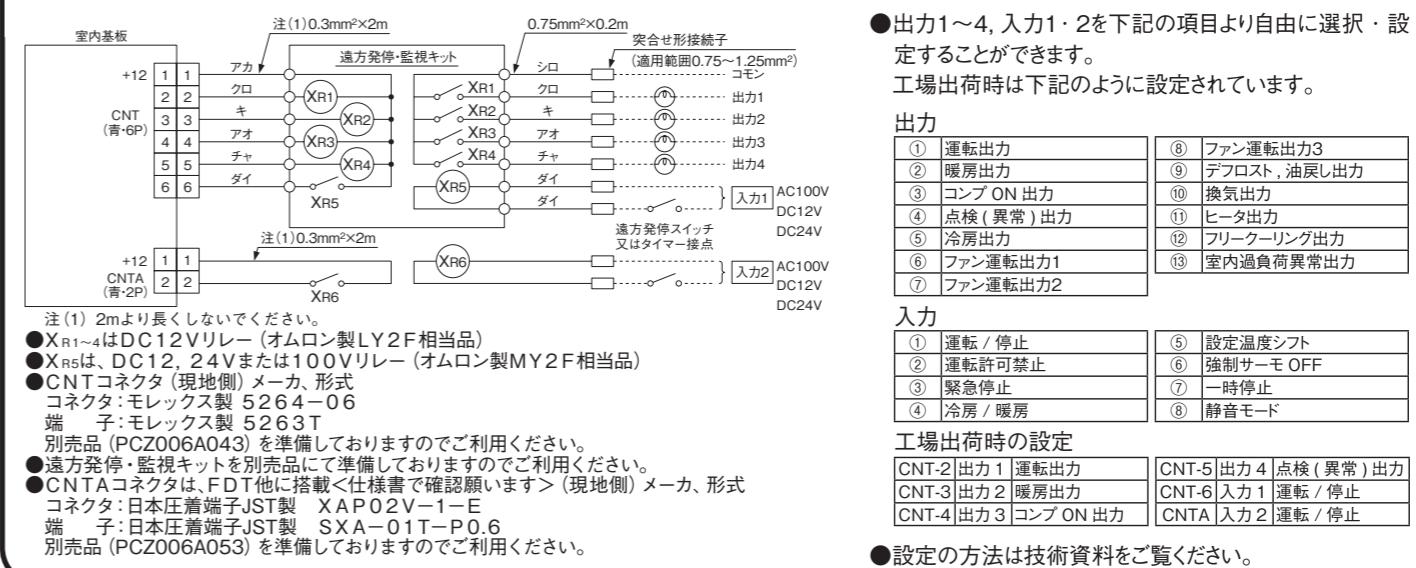
※7: 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定(つづき)

設定および表示項目		詳細内容		ecoタッチ	標準リモコン
4 サービス・メンテナンス サービスパスワード	エアコンNo. 表示	リモコン1台に16台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。		B	○
	次回点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。		A B	
	運転データ表示	室内ユニット+室外ユニットの運転データをモニターすることができます。		B	○
	点検表示				
	異常履歴表示	過去の異常履歴(点検コード・発生時間)を表示します。			
	異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。			
	異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。			
	定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。			
	室内設定保存	接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。		B	
	特殊操作	[室内アドレス消去][CPUリセット][初期化設定][タッチパネル調整]の操作ができます。		B	△
	室内機容量表示 ※1	リモコンに接続されている室内アドレス番号とその形式、容量を表示します。		B	
	UV-Cメンテナンス ※5	ドレンクリーン(UV-C)のメンテナンスを行います。			
	照射設定 ※5	ドレンクリーン(UV-C)の照射時間を設定します。			
	照射積算時間リセット ※5	ドレンクリーン(UV-C)の積算時間をリセットします。			
	お掃除パネル点検	お掃除パネルの詳細点検操作ができます。		B	
8. 困ったときは・・・					
1 連絡先表示		登録した連絡先・TEL番号、サービスフロントセンターフリーコールを表示します。 QRコードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。		A	
2 サービスを依頼される前にQ&A		Q&Aが表示されます。		A	
9. 点検表示					
点検表示確認		異常発生時の表示		A	△
10. パソコン接続					
USB接続		ウェーブクリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。		C	

◆組合せ室内・室外ユニットの仕様により、本内容が機能しない場合もあります。

⑥室内基板CNTコネクタの機能



※1: RC-DX2以前のリモコンには、この機能はありません。

※2: RC-DX3以前のリモコンには、この機能はありません。

※3: RC-DX3A以前のリモコンには、この機能はありません。

※4: RC-DX3B以前のリモコンには、この機能はありません。

※5: RC-DX3C以前のリモコンには、この機能はありません。

※6: 標準リモコンには、この機能はありません。

※7: 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。